

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	保健体育IVB	
科目基礎情報							
科目番号	04202			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	実技			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	「ACTIVE SPORTS」 (大修館書店) 「運動と健康の科学」 (鈴木製本所) /プリント ビデオ教材						
担当教員	鈴木 康平						
到達目標							
(ア)競技規則を理解し厳守する事でフェアで安全にゲームを実施することができる。 (イ)審判、線審、得点係など役割分担をし、自主的にゲーム運営ができる。 (ウ)ダブルスゲームにおいてペアと協力してゲームができる。 (エ)個人技術を理解し、積極的に練習することができる。 (オ)相手の動きや対応して作戦を立てることができる。 (カ)できるだけ速く長い距離を走ることができる。 (キ)エイズについての正しい知識について説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
	バドミントンに必要な技術を習得し、クラス内のメンバーと協力してシングルスとダブルスの試合が実施できる。			クラス内のメンバーと協力してシングルスとダブルスの試合が実施できる。		協力してシングルスとダブルスの試合が実施できない。	
	長距離走で決められた距離をできるだけ早く走ることができる。			長距離走で決められた距離を走ることができる。		長距離走で決められた距離を走ることができない。	
	エイズとその予防策を理解し、自分の考えを述べることができる。			エイズとその予防策を理解することができる。		エイズとその予防策を理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 E1 日本や世界の文化や歴史を、地球的な視点から多面的に認識し、建築技術が社会に与える影響を理解する能力を修得する。 本校教育目標 ⑤ 技術者倫理							
教育方法等							
概要	バドミントンを通じてラケットスポーツの競技特性とゲーム構造を理解する。バドミントンで用いられる道具の操作方法と様々な技術を積極的に習得し、戦略を考慮しながらゲームを組み立てる。また、競技規則を十分に理解し、互いの安全を確保しながら、生涯スポーツを意識して自主的にゲーム運営ができるよう学ぶ。また、持久力の保持増進のために長距離を最大限に努力して走ることができるようにする。保健講義では、エイズとその予防についての講義を通じて、エイズに対しての正しい認識を身につける。						
授業の進め方・方法							
注意点	ジャージを着用し、体育館シューズを使用する。						
選択必修の種別・旧カリ科目名							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ラケットの操作 (グリップと基本的な操作方法、ラケット遊び)		ラケットの操作方法を習得するための練習をする。		
		2週	サービス (ロングサービス、ショートサービス)		サービス技術を習得するための練習をする。		
		3週	ストローク (フォアとバックストローク、フットワーク)		基本的なストローク技術を習得するための練習をする。		
		4週	ラケットワークとフライト (クリアー、ドライブ、ドロップ、スマッシュ、ヘアピン)		応用的なストローク技術を理解する。		
		5週	ラケットワークとフライト (クリアー、ドライブ、ドロップ、スマッシュ、ヘアピン)		応用的なストローク技術を習得するための練習をする。		
		6週	フォーメーション (トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイアゴアル)		試合で必要なフォーメーションを理解する。		
		7週	フォーメーション (トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイアゴアル)		試合で必要なフォーメーションを習得するための練習をする。		
		8週	バドミントンの歴史とルール、審判法		バドミントンの歴史とルール、審判法を理解する。		
	4thQ	9週	ダブルスゲーム		ダブルスゲームを通してゲーム進行を理解する。		
		10週	ダブルスゲーム		ダブルスゲームの中で、これまで練習した技術を実践する。		
		11週	シングルスゲーム		シングルスゲームを通してゲーム進行を理解する。		
		12週	シングルスゲーム		シングルスゲームの中で、これまで練習した技術を実践する。		
		13週	長距離走 (男子5000m、女子3000mのタイムトライアル)		決められた距離を走ることができる。		
		14週	エイズとその予防 (免疫のしくみ、感染ルート、患者・感染者との共生)		エイズとその予防法を理解することができる。		
		15週	エイズとその予防 (免疫のしくみ、感染ルート、患者・感染者との共生)		エイズとその予防法について自らの考えを述べることができる。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。		3	後6,後7,後9,後10

			チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	後6,後7,後9,後10
			チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	後6,後7,後9,後10
評価割合					
	耐寒マラソン	実技課題	保健	合計	
総合評価割合	20	60	20	100	
基礎的能力	20	60	20	100	